

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	修文大学短期大学部
設置者名	学校法人修文学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	生活文化	夜・通信	0	0	67	67	7	
	幼児教育第一部	夜・通信		0	35	35	7	
	幼児教育第三部	夜・通信		0	34	34	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ https://www.shubun.ac.jp/outline/about/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	修文大学短期大学部
設置者名	学校法人修文学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ https://www.shubun.ac.jp/outline/about/ 平成30年度事業報告3ページ目に記載
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 役員	2016.4.1 ～ 2020.3.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	社会福祉法人 理事長	2017.8.24 ～ 2021.5.27	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	修文大学短期大学部
設置者名	学校法人修文学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書(以下シラバスという)の作成過程は、次年度の開講科目および科目担当者の決定がなされる前年度後期に、各担当者に作成要領を配布してシラバスの作成を依頼する。締め切り後に教務委員会をとおして第三者によるチェックをし、シラバスの校正時に指摘事項を担当者に伝える。また、教務課員の内部校正において授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の明示、学修時間の確保など必要項目が記載されているかの確認をする。3回の校正を経たのち、3月下旬に冊子として納品され、教員に配布される。学生へは4月のオリエンテーション時に全員に配布される。また、シラバスをPDF化して学内外からも閲覧できるようにホームページに掲載する。</p>	
授業計画書の公表方法	ホームページ http://www.shubun.ac.jp/educate/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は各科目の授業計画(シラバス)に記載された成績評価方法に従い、試験またはレポートのほか各科目で指示された授業内での評価を含めて成績評価がなされる。科目担当者は学習意欲の把握の為に、必ず出席・欠席をとり、受講中の態度も含めて状況の悪い学生については担任に報告され、改善指導がなされる。学則、定期試験規程に定められた出席日数が不足する場合は定期試験の受験が不可となり、当該科目は不合格となる。定期試験の結果およびシラバスに定められた成績評価基準により、厳格かつ適正な評価の単位が授与される。成績についての異議申し立てがある場合には、成績評価の資料を求めに応じて開示する。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学の成績評価は4段階(A・B・C・D)でDは不合格となる。GPAの計算方法はGPA制度に関する規程に従い、GPはA=4、B=3、C=2、D=0とし、各評価のGPとその修得した単位数を乗じた総和を履修登録単位数で除した数値の小数点以下第二位までをGPAとして表示する。小数点以下第三位の数値は四捨五入とする。成績通知においては累計のほか各学年、学期毎のGPAも表示して成績の動向を把握することができる。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧、ホームページ https://www.shubun.ac.jp/outline/about/

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【生活文化学科】 ディプロマポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活者として社会に貢献できる。 ・社会人として必要なビジネスマナーの基本を修得している。 ・各分野のスペシャリストとして専門的、実践的な技術を修得している。 <p>【幼児教育学科】 ディプロマポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援に適切に対応できる知識・倫理観を身につけている。 ・子どもの広い関心や意欲を育てる保育技術・指導力を身につけている。 ・保育者集団の中で、協働できるルール・マナーを身につけている。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページ</p> <p>【生活文化学科】 http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_life_culture/range_study/</p> <p>【幼児教育学科第一部】 【幼児教育学科第三部】 http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_child/range_study/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	修文大学短期大学部
設置者名	学校法人修文学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shubun.ac.jp/outline/about/
収支計算書又は損益計算書	https://www.shubun.ac.jp/outline/about/
財産目録	https://www.shubun.ac.jp/outline/about/
事業報告書	https://www.shubun.ac.jp/outline/about/
監事による監査報告(書)	https://www.shubun.ac.jp/outline/about/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.shubun.ac.jp/outline/selfevaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ https://www.shubun.ac.jp/outline/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活文化学科、幼児教育学科第一部、幼児教育学科第三部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ http://www.shubun.ac.jp/outline/about/ ）
(概要) 本学は、教育基本法並びに学校教育法の定めるところに従い、修文学院の設置目的である国家、社会に貢献する人材を育成することを基本目的として、一般教養と密接な関連の下に深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を養う大学教育を施し、円満な人格と豊かな情操を涵養し、平和社会の福祉に貢献することのできる社会に有為な人材を育成することを目的とする。 各学科では、建学の精神にそって、以下のように教育目的を定めています。 【生活文化学科】 建学の精神を教育理念とし、「豊かな人間性と確かなマナー」を身につけた社会が求める人材の育成にあたっています。21 世紀を迎えて、わが国は世界一の長寿国となる一方で高齢化、少子化などの諸問題、また豊かな消費生活の陰では深刻な資源・環境問題に直面しています。本学科においては、生活者の視点からこれらの諸問題と取り組み、実践的なスキルの修得を図っています。 また、学科内に生活・医療事務、ファッションビジネス、オフィスキャリア、製菓の 4 コースを設置し、家政、ビジネス、製菓の分野での専門教育を行っています。コースごとの専門知識と技術の修得を通して職業に対する知識と技能を併せもったスペシャリストの育成を図っています。 【幼児教育学科第一部】 一般教養と密接な関連の下に深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を養う大学教育を施し、円満な人格と豊かな情操を涵養し、平和社会の福祉に貢献することのできる社会に有為な人材を育成することを教育目的としています。 人としての思いやりと保育に対する使命感を持ち、専門知識、技術、そして実践的指導力を備え、社会の一員として、またチームで適切に行動できる人材の育成を目指しています。子どもの生活に寄り添いながら、「心身ともに調和のとれた資質」や「生きる力」「主体性」を育むことのできる保育者、現場に強い保育者、子どもから、親から、地域の人々から信頼される保育者の養成に努めています。 【幼児教育学科第三部】 幼児教育学科第三部は、働きながら学ぶ勤労学生の生活実態に即した教育を行うために、修業年限 3 年の課程として開設されました。現在は、午前中第 1・2 限だけの授業を実施しており、本学科第三部においても、第一部と教育目的及び教育目標を共有し、保育者の養成を図っています。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_life_culture/range_study/ ）
(概要) 【生活文化学科】 ・生活者として社会に貢献できる。 ・社会人として必要なビジネスマナーの基本を修得している。 ・各分野のスペシャリストとして専門的、実践的な技術を修得している。 【幼児教育学科第一部】 【幼児教育学科第三部】 ・子ども・子育て支援に適切に対応できる知識・倫理観を身につけている。 ・子どもの広い関心や意欲を育てる保育技術・指導力を身につけている。 ・保育者集団の中で、協働できるルール・マナーを身につけている。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ 【生活文化学科】 http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_life_culture/range_study/ 【幼児教育学科第一部】 【幼児教育学科第三部】 http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_child/range_study/)</p>
<p>(概要) 【生活文化学科】 <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を教育理念とし、「豊かな人間性と確かなマナー」を身につけた社会が求める人材を育成する。 ・生活者の視点から、現代社会における諸問題に取り組み、実践的なスキルを修得する。 ・各分野の専門知識と技術の修得を通して職業に対する情熱や技能を併せ持ったスペシャリストを育成する。 【幼児教育学科第一部】 【幼児教育学科第三部】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育の目的と使命、子ども理解に関わる専門知識を体系的に学びます。 ・保育の内容・方法など保育実践に必要な技術・技能を学びます。 ・保育者、社会人としての規範意識やルールを学びます。 </p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ、大学案内 【生活文化学科】 http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_life_culture/range_study/ 【幼児教育学科第一部】 【幼児教育学科第三部】 http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_child/range_study/)</p>
<p>(概要) 【生活文化学科】 修文大学短期大学部 生活文化学科は、豊かな人間性と確かなマナーを身につけ、コースごとの専門知識と技術の修得を通して職業に対する情熱や技能をあわせもったスペシャリストの養成を目的としています。従って、次のような学生を求めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・各分野のスペシャリストとしての技術を身につけ、専門分野で活躍しようという強い意志を持つ人。 ・社会人としての必要なビジネスマナーの基本を身につけるため積極的に学ぶことができる人。 ・素直でまじめに学ぶ姿勢を持ち、前向きに一生懸命努力できる人。 ・生活者として社会に貢献しようとする意志を持つ人。 【幼児教育学科第一部】 【幼児教育学科第三部】 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの深い関心があり、健やかな成長を強く願う人。 ・保育に関わるピアノや造形的活動など、積極的に学ぶ意欲のある人。 ・みんなと協力・分担して、物事を進める前向きな姿勢のある人。 </p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ <http://www.shubun.ac.jp/outline/structure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	人	—					人
生活文化学科	—	4人	1人	2人	0人	3人	10人
幼児教育学科	—	7人	4人	5人	0人	0人	16人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		65人					66人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページ 【生活文化学科】 http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_life_culture/instructor/ 【幼児教育学科第一部】 【幼児教育学科第三部】 http://www.shubun.ac.jp/educate/dept_child/instructor/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活文化学科	120人	102人	85%	240人	181人	75%	0人	0人
幼児教育学科 第一部	120人	32人	27%	240人	82人	34%	0人	0人
幼児教育学科 第三部	100人	59人	59%	300人	233人	78%	0人	0人
合計	340人	193人	57%	780人	496人	64%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活文化学科	87人 (100%)	0人 (0.0%)	74人 (85.1%)	13人 (14.9%)
幼児教育学科 第一部	58人 (100%)	0人 (0.0%)	54人 (93.1%)	4人 (6.9%)
幼児教育学科 第三部	89人 (100%)	1人 (1.1%)	82人 (92.1%)	6人 (6.7%)
合計	234人 (100%)	1人 (0.4%)	210人 (89.7%)	23人 (9.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
医療機関(医療事務)、企業(事務、販売、サービス職等)、製菓店(パティシエ)、公立保育所(保育士)、				

私立幼稚園・保育所・こども園(幼稚園教諭、保育士)、福祉施設(幼童養護施設の指導員、障害者施設の指導員)など

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画書(以下シラバスという)の作成過程は、次年度の開講科目および科目担当者の決定がなされる前年度後期に、各担当者に作成要領を配布してシラバスの作成を依頼する。締め切り後に教務委員会をとおして第三者によるチェックをし、シラバスの校正時に指摘事項を担当者に伝える。また、教務課員の内部校正において授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の明示、学修時間の確保など必要項目が記載されているかの確認をする。3回の校正を経たのち、3月下旬に冊子として納品され、教員に配布される。学生へは4月のオリエンテーション時に全員に配布される。また、シラバスをPDF化して学内外からも閲覧できるようにホームページに掲載する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価は各科目の授業計画(シラバス)に記載された成績評価方法に従い、試験またはレポートのほか各科目で指示された授業内での評価を含めて成績評価がなされる。科目担当者は学習意欲の把握の為に、必ず出席・欠席をとり、受講中の態度も含めて状況の悪い学生については担任に報告され、改善指導がなされる。学則、定期試験規程に定められた出席日数が不足する場合は定期試験の受験が不可となり、当該科目は不合格となる。定期試験の結果およびシラバスに定められた成績評価基準により、厳格かつ適正な評価の単位が授与される。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	生活文化学科	62 単位	有	49 単位
	幼児教育学科第一部	62 単位	有	49 単位
	幼児教育学科第三部	62 単位	有	49 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ https://www.shubun.ac.jp/campus/campus_facility/
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学 部	生活文化学科	660,000 円	200,000 円	350,000 円	教育充実費
	幼児教育学科 第一部				
	幼児教育学科 第三部	330,000 円	200,000 円	170,000 円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 「地域課題とその解決策」をテーマに、アクティブラーニングを取り入れた授業展開を実施している。また、国際化社会に対応しうる人材育成のため毎年「ヨーロッパ研修」を実施し、国際感覚を養っている。 入学前から基礎科目を中心にリメディアル教育を行い、入学後も学生に対して引き続き実施している。生活文化学科においては、コースごとのインターンシップや実習を支援し、社会人としての基本的なビジネスマナーを身につけさせており、コースごとの資格取得支援にも力を入れている。幼児教育学科においても幼稚園、保育所、施設実習に向けて保育者として必要な技術・マナーを身につけさせることに力を入れている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 各学科において、それぞれの特色にあったキャリアガイダンスを実施しています。生活文化学科においては、1年次後期に毎週1コマ(選択・単位制)を設定し、15回のキャリアガイダンスを行っている。幼児教育学科においては、1年次後期に集中的に数回のキャリアガイダンスを行い希望学生に対して「公務員対策講座」(1年次後期～2年次前期)を50コマ実施している。 また、「学生支援センター」とクラス担任とが連携を取り学生個々の進路支援を実施しています。なお、就職に関する支援ツールとしては、「求人検索ナビ」「SPI 模擬試験」「個人面談面接指導」「就職活動報告書」などを利用して支援をしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 「学生相談室」を設置し、専門のカウンセラーが学生の個々の相談に応じています。なお、内容によってはクラス担任が対応する場合もある。 また、健康面においては、「医務室」にて看護師が対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ http://www.shubun.ac.jp/outline/about/
--